

○支那料理ニ用キラル、珍茸『竹蓐』(口繪參照)

理學博士 川 村 清 一

蕈類ニハ形ヤ色ノ種々ノ者ガ多イガ就中腹菌族ノすっぽんたけノ類(Phalloids)程形狀、色彩ノ奇拔ナ種類ヲ多ク包含シテ居ルモノハ他ニ無イト云ツテヨイ位デアアル、茲ニ本誌本號ノ口繪ノ寫眞ニ示スモノハ即チ其ノ一デアツテさぬがさたけ又ハこむそうたけト呼バレ各地共其發生ヲ見ルモノデ多クハ竹藪ノ内等ニ生エル、莖モ綱ノ「マント」モ共ニ純白デ實ニ美麗デアアル、蓋ハ表面ニ惡臭ヲ放ツ青黒イ粘液ガ附着シ胞子ハ其中ニ混ジテ居ル惡臭ノ甚シイ爲ニ昔カラ毒菌ト見做サレタリ又外國デモ現ニ今丸善書店ニ來テ居ル米國ノミュリル氏ノ「食用及有毒菌」(Murrill, Edible and Poisonous Mushrooms. 價金四圓六十錢)ト云フ書ノ中ニ毒菌トシテ彩色圖デ示シテアル位デアアルガ元來此菌ニハ何等毒性ガナクテ惡臭ヲ發スル粘液ヲ洗ヒ去ツタ後ハ結構食用トナルモノデアアル

●支那料理ニ用ウル竹蓐(滿洲デハ竹參トモ稱スル)ト云フ者ハ本菌ノ脚苞(Volva)ヲ去リ蓋上ノ粘液ヲ洗去ツテ日ニ乾シタモノデ珍味ナ食料品デアアル、日本デハ横濱ノ萬珍樓アタリデハ本國カラ取寄セテ常ニ用キテ居ル、曾テ(明治四十五年五月)故遠藤吉三郎博士ガ歐洲旅行ノ途次、支那ノ廣東ニ寄港シテ同地ノ乾物屋デ買ツタモノヲ標本トシテ小生ノ許ニ送ラレタモノニハ名ヲ竹筴(chok'san)ト云フトアツタ又夫レヨリ前ニ矢部吉禎博士ガ北京カラ持歸ラレタ標本ヲ見タコトガアルガ孰レモ乾品ヲ數個ヅ、東トシテ赤色ノ太イ絲デ括ツテアツタ ●此菌ハ東洋ニ多クテ歐米ニハ極メテ稀ナモノデアアルカラ西洋ノ書物ニハシナビタ様ナ寫眞カ又ハ拙イ寫生圖ガ載セラレテ居ルニ過ギナイノニ日本デモ今迄ノ書物ニ現ハレテ居ル本菌ノ圖ハ大抵ハ西洋ノ書ノ圖ヲ基ニシタモノデアアルガ本菌ノ本場所ハ日本ヤ支那デアアルカラ宜シク生キタ標本カラ撮ツタ寫眞ヲ用ウベキデアアル、此口繪ニ掲ゲタ本寫眞ハ我輩ガ所有スル菌ノ寫眞中最モ佳良ナモノ、一デアアル ●本菌

靈藥「ヨヒンビン」ノ原料植物よひんべ樹

ノ學名ハ *Dictyophora phalloidea* Desv. 其異名トミテハ *Phallus indusiatus*. 及 *Hymenophallus indusiatus*.
ガアル又 *Dictyophora tahitensis*. 並ニ *D. speciosa*. ト云ハルノモ本菌ノコトデア

○靈藥「ヨヒンビン」ノ原料植物よひんべ樹

藥學博士 刈 米 達 夫

よひんべ樹ノ幼木

大正八年二月六日ツヤワノホイデンシヨルグ
植名師デ川米達夫氏ノ親シク撮影シタル



Pausinystalia Yohimba, PIERRE.
(= *Corynanthe Yohimbe*, K. SCHUM.)

よひんべ樹ハアフリカニ産スルアカね科
(*Rubiaceae*)ノ喬木植物ヲ學名ヨ *Pausiny-*
stalia Yohimba, (K. SCHUM.) PIERRE.
ト呼ビ催淫藥「ヨヒンビン」*Yohimbine*ノ
原料植物デア
●本植物ハ主トシ
テ西アフリカノカメルーン *Cameroun* ニ
ゼリア *Nigeria* 佛領コンゴ *Congo* 等ノ
諸地方ニ産シ同地方デハ土語之ヲ「ヨヒ
ンベ」ト呼ビ土人ハ舊クヨリ催淫藥ト
シテ使用シテ居タノデア

ガ一八九六年
獨人スビーゲル氏 *SPIEGEL* ガ初メテ之ヲ
學術的ニ研究シ其有效成分ヲ結晶トシテ
分離スルコトニ成功シタ同氏ハ此成分ヲ
「ヨヒンビン」ト命名シ其製法ニ就テ獨逸